日本比較教育学会

第42回大会　発表要旨集録

Japan Comparative Education Society

42nd Annual Meeting

日時：2006年6月24日（土）～25日（日）

会場：広島大学大学院教育学研究科

主催：日本比較教育学会

台湾の九年一貫性教育課程におけるキャラクター教育の現状と課題

張　汝秀
（文藻外語学院）

一．問題背景及び研究目的

近年、激しい国際競争及び社会変化の下で、国民の資質及び国家の競争力を高めようとする台湾は、かつてない画期的な教育改革を行った。それは、即ち、1998年から本格的に実施された九年一貫性教育課程の改革案である。この改革案は学習者の主体性を尊重するという視点から、児童生徒に理想的な十大基本能力の育成を図ろうとするため、従来の教科分科を打破し、それを七つの学習領域に統合した。それ故に、学校におけるキャラクター教育は、従来の道徳科目の設置と違って、教育活動全体を通じて行うことを基本とするのである。

しかし、近年、都市化、少子化、情報化などの進展を背景とした家庭や地域社会の教育機能が著しく低下したため、子どもの社会性、規範意識や道徳心も希薄化しつつある。これまででは考えられなかったような青少年による凶悪な犯罪が続発している。2003年11月の天下雑誌の調査結果では、小、中学生の道徳性は10年前より低下している意見が70%以上も上った。また、大学入試センターより行われたアンケート調査の結果に、高校（259校）の教務主任（教頭先生）および大学（257校）の人文社会科教授からの賛成意見は87%もあった。これを受け、今年の3月16日に、教育部長（文部大臣）は2008年からの大学入試に「公民與社会」という科目を増加するという考えを示した。

こうしたキャラクター教育の重要性を重視している反面、道徳教育問題が深刻さを示したとも言える。したがって、本研究は従来の道徳教育への反省から、道徳的な環境作りを重視する九年一貫性教育課程、特にキャラクター教育に最も関連している社会学習領域には、いかなる問題点および課題を抱えているかを検討し、それをいかにして克服すべきかを考察しようとするものである。つまり、本研究の研究範囲は子どもの道徳性の育成に最も関連している社会学習領域を中心に検討するのである。

二．九年一貫性教育課程における価値内容およびその課題

『国民教育階段九年一貫課程総綱綱要』では、「国民教育段階の教育課程編成は、児童生徒を主体とし、生活経験に重心をおき、現代の国民が必要とする基本的能力を育成するものでなければならない」[1]と従来の知識中心から「基本的能力」への育成を重視することを示した。そして、九年一貫性教育課程の学力観は、①自己理解と潜在能力の開発、②鑑賞、表現、創造、③人生計画と生涯学習、④表現、コミュニケーション、他者と苦楽を分かち合う、⑤尊重、関心、集団意識、⑥文化学習と国際理解、⑦計画、組織および実践、⑧科学技術と情報の運用、⑨能動的な探求と研究、⑩独立思考と問題解

1　教育部　『国民教育階段九年一貫課程総綱綱要』　1998年9月　教育部　p.3

決[2]、という十大指標に基づいて児童生徒の基本能力を育成しようとするものである。

このように、「社会学習領域は自我、人と人、人と環境との相互関係を統合する知識領域であ」[3]り、その教育課程の目標は次のように十項目を取り上げられた[4]。

① 地元および他の地域社会における環境・文化の特徴、差異性と直面する課題を理解すること。

② 人と社会、文化及び生態環境の多元的な相互関係、並びに環境保育と資源開発の重要性を理解すること。

③ 社会科学の基本知識を充実させること。

④ 本土と国家への容認、関心および世界観を育てること。

⑤ 民主の素質、法治観念及び責任の態度を育てること。

⑥ 自我と自己実現への力を理解させることを育成し、積極性、自信と明るい態度を養成させること。

⑦ 批判的思考、価値判断および問題解決の力を育てること。

⑧ 社会参与、理性的決定及び実践の力を育成すること。

⑨ 表現、コミュニケーションおよび助け合いの力を育てること。

⑩ 研究の興味および研究、創造、情報処理の力を育成すること。

以上の十項目から見れば、道徳的規範、民主的法治、公民の責任などの価値内容が覗える。その中で1～3 項目は認知面の育成を、4～6 項目は情意面の育成を、7～10 項目は技能面育成を重視するものだと言える。それは、いわゆる道徳的認識知識、道徳的心情、道徳的実践力というものであるが、道徳的実践行為により力を入れていることが分かる。

これに対し、張秀雄氏は、「これらの教育理念の多くは価値中立の概念または能力に属するため、社会学習領域の教育課程目標は論争しやすい価値問題に触れないようにし、教育課程の内容価値を意図的に薄くさせるのを示し、社会学習領域を価値中立の方向へ導こうとしている」[5]と述べ、、九年一貫性教育課程にキャラクター教育の危機が潜んでいる[6]とはっきり指摘した。しかし、台湾のような多元的社会では価値観の対立は言うまでもないことであるため、社会全体の基底に基礎的・共有的価値観を求めるという九年一貫性教育課程の編成視点こそ、適切ではないかと思われる。

学校全体を通して、キャラクター教育を行うという九年一貫性教育課程の編成視点は、リコーナの道徳教育理念に即している。リコーナの道徳教育理念の具体例とされるアリゾナ州の実践例から見れば、普遍的な道徳的価値を求めることは、価値観の対立している多元的社会であっても、基礎的・共有的価値観を確認することができる。また、学校全体の道徳的雰囲気を求めるために、地域社会、保護者などの協力は必要である。そして、九年一貫性教育課程に潜んでいる危機は価値中立の問題というよりも、むしろ道徳的環境作りが看過されているというところにある。したがって、学校全体の改革、特に教員資質の向上は九年一貫性教育課程のキャラクター教育において極めて重要な課題である。

---

2 教育部 『国民教育階段九年一貫課程総綱綱要』 1998 年 9 月 教育部 p.4-6

3 http://teach.eje.edu.tw/9CC/fields/2003/society-source.php 2006 年 5 月 12 日 p.1

4 http://teach.eje.edu.tw/9CC/fields/2003/society-source.php 2006 年 5 月 12 日 p.1-2

5 張秀雄 「九年一貫課程【社会学習領域】中的公民道徳教育」 『公民訓育学報』第 11 輯 p.46

6 張秀雄 「九年一貫課程【社会学習領域】中的公民道徳教育」 『公民訓育学報』第 11 輯 p.51